

僕は朝日小学生新聞を購読しています。
6月12日金曜日の新聞に、スペイン
サグラダ・ファミリア教会の「イエスの塔」が
ついに完成したという記事を読み、
とても興味を持ったので、調べました。

サグラダ・ファミリア教会は、スペインの建築家
アントニ・ガウディの代表作です。
スペインのバルセロナにあります。
一年間に約五百万人の観光客が訪れます。そして
「イエスの塔」は、この教会の中央にそびえる
最も高いメインタワーのことです。右の写真が
「イエスの塔」です。



「イエスの塔」があるサグラダ・ファミリア教会の『サグラダ・ファミリア』はイエス、
マリア、ヨセフの聖家族のことです。
日本では聖家族教会(せいかぞくきょうかい)
と呼ばれることも多いです。
僕はユダヤ人です。幼稚園のクリスマス会でも
ヨセフ役をしたのでよくわかります。

サグラダ・ファミリア教会は1882年に
建設が始まりました。
この教会には三つの正面があります。
東側、西側、南側です。
東側の「生誕せいたんの正面」と
右の写真にあります西側の「受なんの正面」は
完成しています。
南側の「栄光の正面」は、なんと今も建設が
続いています。



1882年にこの教会を建設し始めたものの、いまだに完成していないことを知りびっくりしました。

1883年にこの教会の主任建築家になったガウディは、1926年に亡くなるまで、この教会の建設に精魂を傾けてました。身なりにかまわず変人と言われたましたが、「世界をもっと美しくしよう」と考えて曲線を多く使い、新たなアイデアを次々に実現させました。

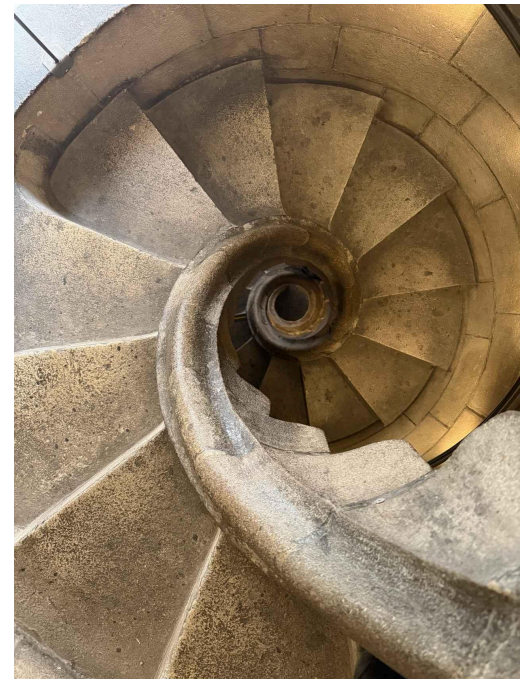
ガウディが活着ている間に全体の4分の1未満が出来上がったそうです。サグラダ・ファミリアの全体像は、設計者アントニ・ガウディの頭の中にしかなかったとも言われています。さらにガウディの死後、模型や設計資料の多くがスペインの内戦によって失われてしまいました。そのため建設にたずさわる人々は、わずかに残された資料や写真をもとにガウディの構想を読み解きながら、少しずつ工事を進めてきたようです。

福岡市出身の日本人彫刻家 外尾悦郎(そとおえつろう)さんは、1978年からこの教会の彫刻の仕事に関わっていて、2013年からは主任彫刻家として全体を取り仕切っているそうです、すごいなと思いました。

工事のお金、資金不足により工事がなかなか進みませんでした、1990年代以降に観光客から拝観料の収入が増えて、良くなりました。

空へ向かって伸びる18本の塔が特に素晴らしいです。実はこれらの塔は単なる飾りではなく、ガウディが建物全体でキリスト教の世界観を表現するために設計したものです。今回完成した高さ172.5メートルの「イエス・キリストの塔」を中心に、その周囲には聖書の福音書を記したマタイ、マルコ、ルカ、ヨハネを象徴する4本の塔が配置されています。

さらに少し離れた位置には2021年に完成した聖母マリアの塔が建ち、外側を囲む12本の塔はキリストの弟子である十二使徒を表しています。



たくさんある見どころのひとつが、下りで利用する螺旋(らせん)階段です。アンモナイトをイメージして設計されたとも言われる美しい曲線の階段は、ガウディが自然界から着想を得ていたことを感じさせてくれます。

僕はこの写真を見た時に、バチカン市国のサン・ピエトロ大聖堂にある地獄のような螺旋階段を思い出しました。これとは違い真ん中の空洞には、柱のようなものがあり、何も見えないほどの暗闇で、光が届く窓もすくなく、登るにつれどんどん空気も薄くなっていく感じがしてメンタル崩壊しかけました。今回調べてみて、ガウディーさんは光と窓の使い方がすごく上手だなと思いました。ほぼ百年前に作り始めたのにまだ完成していないというのにびっくりしました。イエスの塔にあるこの階段は、サン・ピエトロ大聖堂の会談と違って、暗闇などがなく、鏡をうまく使っているのすごいなと思いました。

